



「日本人女性のジェンダーギャップの研究」に取り組んでいる本校の SG グループ LABO2 の生徒 7 名が 8 月 26 日～31 日、フィンランドのヘルシンキで研修を行います。教育、企業、政府機関の 3 つの分野にわたる 5 つの施設を訪問し、男女平等を推進するフィンランドの教育方法や働き方、どのような制度やルールがあるのかを学びます。同世代の高校生とのディスカッションにも積極的に取り組み視野を広げ、お互いの歴史や文化について学びます。

8 月 26 日 (日) ヘルシンキに到着しました



[ヴァンター空港到着]



■ 成田空港からヘルシンキへ

8 月 26 日、成田空港を出発し、予定どおりヘルシンキに到着しました。現地の気温は 18 度。湿度も低く、かなり涼しく感じます。生徒は冬の制服を着用しています。

8 月 27 日 (月) 企業・保育園訪問

■ 女性起業家ヨハンナ・グリクセン氏訪問

幾何学模様の織物をデザインして、インテリア雑貨や小物の製作販売で成功しているグリクセン氏を訪問してお話を伺いました。起業されたきっかけやフィンランドの企業の制度等を教えていただきました。大学ではフランス語やフランス文学を専攻していたグリクセン氏は、テキスタイルに興味を持ち造形大学で改めて学習されたそうです。フィンランドでは学費（大学を含む）が無料なので、別の分野でも学習したいと希望すればすぐに学ぶことができます。税制や社会保障の仕組みが日本とは異なることが実感できるお話でした。

■ パイヴァルピルティ保育園訪問

昨年度まではジェンダー教育の研究実践を行っている保育園を訪問してきました。そこでは徹底したジェンダー教育を行っており、読み聞かせの物語はジェンダーを考えさせないものを選んだり偏った考え方の園児がいると話し合いをさせ理解させたりするという取り組みを行っていました。

今年度は比較することができるように普通の保育園を訪れました。前述の保育園のような徹底したジェンダー教育は行われてはいませんが、フィンランドの幼児教育要領には「個々の考えを尊重した教育を行う」と明記されているので、フィンランドの保育園ではどこでも子どもたちが遊びたいものを自由に遊ばせているということでした。

日本と異なる点としては、保育園に入園した 1 週間は保護者が一緒に過ごしながらか段階的に保育園に慣れていく制度があり、そこに通う保護者は男性が多いそうです。育児休暇の前半は女性が取得し、後半は男性が取得するので保育園入園の直前は男性が多くなるのが理由です。



8月28日（火）ヘルシンキ国際高校
(Helsinki Upper Secondary School of Languages in Finland) との交流



ヘルシンキ国際高校は生徒数 580 名、日本語を含む様々な言語を学べる高校で、本校と同じユネスコスクールです。現在校舎を改築中で、完成すると生徒数は倍になるとのことです。

毎年夏に本校の生徒が訪れ交流を行っています。最初に本校の紹介、研修の目的、自己紹介から始まり互いの文化について話し合います。

昼食をはさんで宗教の時間で「ジェンダー」についてのディスカッション等を行いました。言語は英語を使用します。国際高校の生徒の中から立候補した生徒がチューターとなり、積極的に対応してくれるので本校の生徒たちもすぐに打ち解け、仲良くなります。来年 2 月に本校で行う成果発表会でのジェンダーに関するパネルディスカッションにも参加生徒が来日する予定です。明日 4 日目は政府機関を訪問し、たくさんのことを学びたいと考えます

